

平成19年度

# 病害虫発生予察特殊報(第8号)

平成20年3月10日  
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：ハコベハナバエ  
*Delia echinata* Seguy

作物名：ハウレンソウ

## 1 発生経過

- 平成19年10月に農業技術センター北相地区事務所より、所内の試験圃場と相模原市藤野町で栽培されているハウレンソウの葉肉を食害する昆虫の被害が目立ち、寄生葉が当所病害虫防除部に持ち込まれた。
- 現地の被害状況は、10月播きハウレンソウに被害が見られており、特に10月初旬播きで被害が多く、一部のほ場では8割程度の被害株率となった。11月13日に北相地区事務所と病害虫防除部職員で相模原市津久井町、藤野町の圃場を巡回したところ、被害は散見される程度であった。
- 持ち込まれた幼虫を25℃で飼育し、羽化した成虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼をしたところ、ハコベハナバエと同定された。
- 本種は九州以北の日本各地および、朝鮮半島、ヨーロッパ、北アメリカに分布するハナバエ科の一種で、カーネーション、ハコベ、オランダミミナグサ、ハウレンソウ等に寄生するとされているが、本県でハウレンソウへの寄生を確認したのは初めてである。

## 2 形態および生態

- 形態  
成虫は体長6～7mm、胸・腹部は灰黄色粉でおおわれた黒色をしている。老熟幼虫は体長6mm内外で淡黄緑色、蛹は体長約5mmで赤褐色俵状である。
- 生態  
詳細な生態は未解明であるが、近縁のタネバエと同様の経過をたどると推定される。成虫は、暖地では3月上旬頃から発生し、4～7月頃に発生が多く、10月中下旬まで被害が見られる。卵期間は5日内外、幼虫は10日程度で老熟し、食害部から脱出して土中の浅いところで蛹化する。蛹期間は約2週間である。1年に数世代を繰り返して、土中に蛹態で越冬する。窒素や有機物を多用すると成虫が誘引されやすい。

## 3 被害及び寄主植物

- 被害  
先端近くの葉裏に点々と産卵し、ふ化幼虫は葉肉部に細い線状に潜る。食害された部位は袋状の潜孔痕を残す。潜葉が萎れると下方の葉に順次移行し、葉がなくなるときには茎中にも潜入する。

(2) 寄主植物

カーネーション、ナデシコ、セキチク、ハコベ、オランダミミナグサ等ナデシコ科植物、ホウレンソウ等。

#### 4 防除対策

- (1) 10 月中下旬頃まで被害が見られ、それ以後の被害はほとんど見られない。本種の被害が見られる作型では、防虫ネット等で被覆し、成虫の飛来を防ぐ。
- (2) 窒素や有機物の多用は成虫を誘引するため避ける。
- (3) ほ場周辺のハコベ、オランダミミナグサなどの寄主植物となる雑草を除去する。



<被害 1 (線状潜孔痕)>



<被害 2 (袋状潜孔痕)>



<老齡幼虫>



<蛹>



<成虫>

神奈川県農業技術センター  
病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333  
FAX 0463-59-7411  
テレホンサービス0463-58-6612  
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshou/top.asp>